1971年8月7日 第3種郵便物認可（毎月6回 1・6の日発行）
2008年12月15日発行　ＳＳＫＡ頸損 増刊通巻6438号

SSKA 頸損 KEISON No.96

もくじ

巻頭寄稿
「あふれ出る自立支援法NO！の叫び」10.31大フォーラムの報告
DPI日本会議議長　三澤　了・・・・・1
連　載 会員紹介　大阪頸損・猿木唯資さん「車椅子のクォーターバック」・・・・・4
特　集 各地のセルプヘルプ活動「頸損関連団体＆友好グループとの交流と近況報告」
①第３回"四国頸損連絡会の集い"報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
②倉吉市の仲間を訪ねて　～熱き心に触れる旅～・・・・・・・・・・・・・・・・7
③「多治見ワインフェスタ２００８」に参加して・・・・・・・・・・・・・・・・8
④国立リハセンター・並木祭にて「東京頸損ブース」開設・・・・・・・・・・・・9
⑤国立伊東重度障害者センター文化祭参加・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
⑥四肢マヒ者の情報交換誌「はがき通信」懇親会・・・・・・・・・・・・・・・12
⑦"福島頸損友の会"会員近況報告「感じるままに！」・・・・・・・・・・・・・14

おなかに肛門出来ちゃった！　～ ストーマレポート・その① ～　・・・・・・・15
短期連載 頸髄損傷者の中間期（春季・秋季）の望ましい室内温度
東京理科大　三上功生・・・・17
連　載 お役立ち　①パソコン関連グッズ・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
②車椅子事情と主要メーカー連絡先一覧・・・・・・・・・・・・21
連　載 支部紹介　京都頸髄損傷者連絡会・・・・・・・・・・・・・・・・・・23

「国際福祉機器展HCR2008」会場で当事者向けセミナー開催・・・・・・・・・・24
リハ工学協会カンファレンスin新潟・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
第２回 全国頸損連絡会・リハ工学協会　合同シンポジウムのお知らせ・・・・・27
交通統一大行動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
08秋の全国代表者会議報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
福祉用ロボットスーツ・HAL・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
2009全国頸髄損傷者連絡会・岐阜大会のご案内・・・・・・・・・・・・・・・31
全国頸損支部・本部連絡先・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
リレーエッセイ、編集後記、編集部よりのお知らせ・・・・・・・・・・・・・34

巻頭寄稿

「あふれ出る自立支援法 NO！の叫び」10.31 大フォーラムの報告

DPI 日本会議議長　三澤 了　（全国頸損連絡会相談役）

日比谷公園野外音楽堂大集会

１０月３１日、2005 年のちょうどこの日、多くの「反対」の声を無視して障害者自立支援法が成立した。以来、2006 年、2007 年と、同じ 10 月 31 日に、自立支援法を根本からつくり直すことを求めて、集会を行ってきた。一昨年は 15000 人、昨年は 6000 人という人々が、全国各地から日比谷公園や厚労省前に集まり、自立支援法の抜本的な見直しを求める声をあげてきた。

今年は、「もうやめようよ！障害者自立支援法　10.31 全国大フォーラム　～1 からつくろう地域で暮らせる新たな法制を～」というタイトルで、日比谷公園野外音楽堂に 6500 人の障害者ならびにその関係者を集めて、集会が行われた。車いす利用の障害者、視覚、聴覚に障害を持つ人、知的障害の人、そして障害児の手を引いた親御さん、等々、毎年のことながら全国各地から多くの人が駆けつけ、会場に入りきれずに、会場の外で、会場から聞こえてくるスピーカーの声に耳を

傾ける人の数多く、見受けられた。この集会は、３年前より、自立支援法のあり方に疑問を呈し、作り直しを求めている日本障害者協議会（ＪＤ)、全日本ろうあ連と、ＤＰＩ日本会議や全国自立生活センター協議会(ＪＩＬ)が事務局として、活動している､｢地域生活の確立の実現を求める全国大行動実行委員会」の３団体が協同して行われているものである。

集会壇上の三澤議長

主催者として開会あいさつに立った、全日本ろうあ連盟副理事長の石野富士三郎氏からは､｢自立支援法が実施されて２年の歳月が経過するが、この間に地域格差がますます広がり、生活を維持することが困難になっている人が、各地に生まれている。自立支援法はもうやめて、すべての障害者の生活を支える仕組みを作ろう。｣というあいさつの言葉がのべられた。続いて、各政党からの連帯あいさつが述べられたが､程度の差はあるものの、与野党問わず、出席された政党からは、今の自立支援法をこのままの形でおくわけにはいかないという趣旨の発言が続いた。特に野党側からは、自立支援法が多くの障害者の生活を破壊していることをあげ、一国も早い廃止と、新たな法整備の必要性が述べられた。

続いて、北海道、愛知、熊本といった地域での取り組みの報告ならびに、ヘルパー不足の現状、精神障害や知的障害の問題、コミュニケーション支援の重要性等々に関して１０人ほどの人々からの意見発表が行われた。発表に立った全ての人の口から、さまざまな場面で、自立支援法の悪影響が現実のものとなって浮かび上がっているという報告がなされた。日比谷の野外音楽堂の集会は、２時３０分頃には終了した。開会から閉会まで、各種の発言を行った発表者からは、それぞれに「もうやめようよ！」とい声の下に、自立支援法に代わる新たな福祉サービスシステムを求める声が発せられた。

昨年の集会では、今年と同じ野外音楽堂や厚労省前でのアピール活動や、政党シンポジウム等を行い、デモ行進は取り入れなかったが、多くの参加者からは物足りなかったようである。｢デモ行進をやれ！」という声が、各地から聞こえてきたこともあり、今年はデモ行進を復活させることとした。国会請願デモに約２０００人、銀座方面から東京駅駅へ向かうルートに約４０００人と２コースに別れてデモ行進を行った。毎回デモルートを決めたり、参加人数を決めるのに、警察との調整で長時間を要することになる。２日がかり、３日がかりになることも珍しくはない。(もちろん３日間も警察署に居続けるということではないが)。今年は、集会参加者もデモを指揮するスタッフ達も、そして警備の警察の人たちも、デモ

慣れしたようできわめてスムーズにデモ行進を行うことができた。国会請願デモでは、衆議院の解散がこの時期には行われている可能性が高いということで、議員諸氏が出てこないことも予想されたが、解散が先延ばしとなったこともあり、衆議院、参議院とも民主、共産、社民の野党議員が複数、それぞれの議員面会所の前に並び、全国から集まった集会参加者とのエールを交わすことができた。

この行動をはじめ、障害当事者が主体となって抜本的見直しを叫び続けている行動は、一定の成果を上げてきたと言えよう。一昨年のこの行動の後に政府・厚労省は、1200 億円の補正予算を組み、経過的な応益負担の軽減策を中心とした特別対策を講じ、さらに昨年の行動の後には、12 月に出された与党プロジェクトの方針を受けて、更なる負担軽減策を緊急措置として打ち出している。政府・厚労省がこうした措置を執らざるを得ないところまでは、私たちの声が成果を上げているといえる。しかし、これらはあくまでも、「特別対策」であり、「緊急措置」というものであって、財政抑制を中心的な課題としている自立支援法の本質を変えるものでないことも事実である。

ちょうど同じこの日に、自立支援法の応益負担の仕組みが、生存権保障に反するものであるという主旨で、司法の場で自立支援法のあり方を争うため、全国で２９人の障害者とその家族が、居住する自治体を相手取り、自己負担の取り消しなどを求めて、東京や大阪、福岡など８地裁に一斉提訴を起こしている。

１０月３１日は、事前の予想に反して、曇り空の下、冷たい風の吹く一日であった。そうした寒さを吹き飛ばすような、集会参加者の熱気が渦巻き、「自立支援法ＮＯ！」の声を政府に、国会に、そして社会に訴え続けた１日であった。

国会議事堂に向けてデモ行進

頸損連絡会メンバーも参加

国会議事堂脇で各党議員への誓願行動

会員紹介

大阪頸損連絡会　猿木 唯資さん
「車椅子のクォーターバック」

現在、税理士の猿木唯資さん

9/23 大阪頸損連絡会では、「頸損ピアサロン」という企画を行いました。これは、「当事者だから、伝えられることがある」という企画のもと、何かに取り組んだ、あるいは取り組んでいる頸損当事者から当事者への語りかけ、そして聞き合おうというもの。今回の第１回目は大阪頸損連絡会員の猿木唯資さんを招いて、皆で話をうかがいました。

話し手猿木唯資さん(左)と、聞き手田上彰洋さん(右)

猿木さんは受傷して今年で 31 年になります。学生当時、アメリカンフットボールの名クォーターバック（オフェンスの司令塔）として、関西学院高等部、関西学院大学で活躍してきました。とくに、関西学院大のアメフトチーム「ファイターズ」ではリーグ戦 145 連勝、甲子園ボウル５連覇を引っぱっていたスター選手として、世の中の脚光を浴びていました。リーグ戦連勝記録を 145 でストップさせた京都大学「ギャングスターズ」との、翌年の大逆転勝利で知られる”涙の日生球場”のゲームにも主役として出場、エンドゾーンを１㎝超えた執念の逆転２点コンバージョンは、偉大なプレーとして称賛され、現代にも語り継がれています。

名プレーの数々は今も語り継がれている

４年生の春、対近畿大学戦試合中の相手タックルにより、頸髄を損傷する大事故に襲われ、車椅子の生活になりました。そして、そこから第二の闘いの人生が始まりました。闘いのない人生はつまらない、そのとおりの生き方をされてきました。将来に

対する描いていた夢はいったん絶たれたものの、大学を卒業し、車椅子で関学アメフトのコーチをしながら会計の専門学校にも通い、6年かけて昭和60年に税理士の資格を獲得し翌年に開業､今は開業して23年になるそうです。また、もともと猿木さんのファンだった彼女と、開業したその当時に結婚され、今はもう早くも中学1年生になる息子さんの恐くて優しい親父さんでもあります。税のエキスパートとして顧客の幅広い相談や依頼に対処したり、ときには税金関係のラジオ番組に出られたり、またアメフトの試合の解説者としてテレビに出られていることもあります。そしてこの数年は、猿木さん自身が無年金障害者であることから、その無年金障害者問題への取り組みも精力的にされています。

猿木さんに関しては、1980年に草鹿宏著（一光社）の「勇者に翼ありて」が発行され、以後1986年（今から22年も前）にNHKドラマ人間模様「妹」で当時若きギバちゃんこと柳葉敏郎さんが猿木さん役を、妹役に藤谷美和子さん、恋人役に二谷友里恵さんが演じるフィクションドラマが放映されました。記憶に残っている方もおられることでしょう。

【文責：大阪頸損連絡会　鳥屋利治】

1986年当時の柳葉敏郎が演じる猿木唯資さん

妹役の藤谷美和子

ドラマ化のきっかけとなった
草鹿宏著「勇者に翼ありて」

恋人役の二谷友里恵と柳葉敏郎

「第三回・四国頸損連絡会の報告」

愛媛頸損連絡会　鈴木　太

2008 年 11 月 2 日、愛媛県四国中央市・保健センター一階会議室におきまして第三回の四国頸損連絡会の集いが開催されました。三回目という事もあり四国四県の参加者 9 名と兵庫・大阪からの 5 名の参加者、ボランティアやヘルパーで交流を深めました。

11 時 30 分開始と言うことでしたが、遠い場所からの参加もあり、半分ぐらい集まった参加者で自己紹介をはじめました。もう少し時間がかかりそうだと連絡がありましたので、先に昼食をとることになり、交流を深めながら参加者が揃うのを待ちました。12 時 30 分頃には全員が揃い、昼食も落ち着きはじめましたので再度自己紹介と簡単なコメントをいただきました。

13 時頃より四国の現状を報告しました。愛媛は私が、高知は森下さん、徳島は天野さん、香川は白川さん・塩田さんから現状の報告がありました。定期的な交流会は出来ているが天候や参加者の人数で中止したり、どうしてもアクセスの悪い田舎と言うことで、思うようには交流会や新しいセルフヘルプの運動などは行われていない状況のようです。その後質問を受け付けたところ大阪・鳥屋さんより四国の電車利用について教えてほしいと質問がありました。そこで四国のメンバーに一人ずつ意見をもらいました。現状の四国では県庁所在地や大きい駅をのぞき、当日や急な乗車には対応できず、駅員や駅の環境によって左右されてしまうようです。

14 時前からは全国や大阪・兵庫の活動状況をしていただきました。大阪・鳥屋さんからは、全国総会・大阪大会「You are not alone... ひとりじゃないよ...〜高位頸損による人工呼吸器使用者の可能性〜」の報告とセルフヘルプ活動について。

兵庫・宮野さん・三戸呂さんからは、リハ工学協会＆全国頸損連　合同シンポジウムのお知らせ・鳥取頸損者交流会の報告。兵庫・三戸呂さん「頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査」について・福島頸損者交流会の報告が行われました。セルフヘルプの重要性を再認識し、呼吸器ユーザーにとっては刺激になる報告であったと思います。

四国四県参加者と兵庫・大阪メンバー歓談

最後にみなさんから一言ずつ意見をいただき、次回もこのような集まりが、集まりやすい場所で開催しましょうと言うことでひとまず会を終わりました。会場の予約が 30 分程度残っていましたので、あとは各自交流会としました。

年に一度の集まりではありますが、顔見知りも出来、突っ込んだ話や生活に近い話などもできあえるようになった気がしました。実際会の終わった後の交流が非常に楽しかったと意見がありました。

倉吉市の仲間を訪ねて　～熱き心に触れる旅～

兵庫頸損連絡連会　坂上　正司

福島での熱い集いも冷めやらぬ 7 月 26 日（土)、兵庫支部のメンバー4 名（介助者 7 名）がとなりの鳥取県倉吉市在住の頸損の仲間 3 名(介助者と家族 3 名)を訪ねて、日帰りの旅に出ました。宮野事務局長と私は、それぞれの愛車であるフェラーリ・セレナとランボルギーニ・ハイエースで、三戸呂会長と兵庫の中心メンバーで人工呼吸器使用者の米田さんは鉄道で倉吉を目指しました。

私は朝 7 時 30 分に自宅発、中国自動車道宝塚 IC から岡山県境の勝央 SA に変更。勝央 SA で休憩と打合せをすませて、次の休憩地点・米子自動車道蒜山（ひるぜん）高原 SA へ。しかし、「高原」とは名ばかりで、ロケーションはいいけど・・・なぜか暑い。「蒜山高原ジャージー牛乳ソフトクリーム」もからだを冷やしてくれない。蒜山高原 IC から一般道へ。大山の山麓を南から東へ・・・宮野号のカーナビのおかげでとんでもない山道へ。遭難しつつも予定よりやや早く 11 時 30 分に会場の倉吉市「パークスクエア」到着。Y さんと O さんの出迎えを受けました。

鉄道組は、明石駅から「スーパーはくと」の木目調の車内は落ち着くが狭い車内で、回転もできず、乗客にまたがれ、熱いデッキでよく頑張りました。倉吉駅に迎えの坂上号、宮野号に分乗して、「パークスクエア」到着。

まずはご当地食材をふんだんに使った懐石風弁当で腹ごしらえ。梨ワインもなかなかのものでした。食事をしながら、還暦を超えても少ない社会資源を駆使して自立生活を展開する Y さんと施設の生活をあまり語らない O さんと熱い心を通わせました。Y さんは次作の道具を使った生活の工夫を語ってくれました。O さんは、近いうちの関西での再会を約束してくれました。

引き続いて喫茶店へ移動。ここで、家族同居で二十歳そこそこ、頸損歴一年ちょっとでありながら、自立生活をある程度イメージできている I さんが合流。梨シャーベットで体を冷やしながら、私たちは、この山陰の地において、小さいながらも強い、確かな自立へ向けた I さんの魂の叫びを聞いたのでした。それと同時に、地方に行くほど伝わる情報の量が極端に少なくなっていることを思い知らされました。私たちは、この 3 人が鳥取の頸損の中心になれるよう支援していかなければならないという思いを強く持ちました。

このあと、二十世紀梨記念館を見学、お土産を買って、帰途につきました。坂上号、宮野号は湯原温泉 IC から米子自動車道、中国自動車道で、鉄道組は、倉吉駅から「スーパーおき」で、暑さでふらふらになりながら帰宅。次回は涼しい頃に・・・

多治見ワインフェスタ２００８

愛知頸損連絡会　三好宏和

愛知頸損連では毎月定例会を開き、行事や勉強会を行っています。今回は去る11月3日に、多治見神言修道院にて社会福祉法人AJU 自立の家ピア名古屋主催の「多治見ワインフェスタ２００８」に参加してきましたのでその様子を紹介いたします。

多治見神言修道院(正面)

当日はあいにくの曇り空でしたが午後からは暖かな陽気に恵まれ、愛知頸損連会員とその友人達約20名にて交流を深めました。ワインの飲み比べや屋台のおでん・焼きそば等でお腹を満たし、ミニライブや地元の高校生の合唱、多治見宮太鼓にフラダンス等々、また、大聖堂では山田昌さんのトークショーやパイプオルガン、ヴァイオリンの演奏が行われ、盛り沢山のイベントでお腹も気分も満腹でした。美味しいワインのおかげもあって、チョットほろ酔い気分で日頃、交流の少なかった人達とも楽しくおしゃべりができ、楽しい秋の一日を過ごせました。この楽しさを障害のある仲間達に伝え、一人でも多くの人が外に出るきっかけとなるよう、愛知頸損連の活動を続けています。

【多治見ワインフェスタとは】

日本において男子三大修道院の一つと言われている緑豊かな中世ヨーロッパを偲ばせる多治見神言修道院で、２００３年より社会福祉法人 AJU 自立の家ピア名古屋の仲間たちが葡萄を作り、ワイン造りのお手伝いを行っています。この多治見ワインフェスタは一年を通して行われている作業やワイン造りを行いながら、自立に向かっている成果を発表する場として、毎年１１月、多治見修道院ワインをはじめ、世界の修道院ワインを味わいながら、多彩なゲストにご協力をいただき、様々なイベントとともに開催するものです。

ワイフェスタ開催中のワイン販売収益は、ピア名古屋、多治見修道院で働いている障害をもつ人の工賃として支払われます。

愛知頸損連の仲間

◆ワインへのお問い合わせ及びご注文は下記へお願いいたします。

販売　社会福祉法人　ＡＪＵ自立の家　ピア名古屋

名古屋市昭和区恵方町２－５

ＴＥＬ　０５２－８４１－９９９４

ＦＡＸ　０５２－８５２－４８１０

★ピア名古屋（ワイン注文）

E-Mail：wine@aju-cil.com

会場の様子

会場の様子

国立リハセンター「並木祭」東京頸損ブース出展

東京頸損連絡会　石毛正幸

平成 20 年 10 月 18 日に国立リハビリテーションセンター（埼玉県所沢市）において国リハ並木祭にセルフヘルプの一環として、頸髄損傷者の自立生活と東京頸髄損傷者連絡会の紹介ということでブースを出してきました。

今回の活動の担当をすることになり、私自身こういう事が初めてのことで戸惑うこともありましたが、麩澤さんをはじめ、役員のアドバイスなどを参考に頸損連絡会の活動紹介などを作成しました。

受傷して間もない人や入院している人達、また地域で暮らしている人たちに出会い、話をすることが出来ました。受傷したばかりという青年と色々話をしていくうちに自分の受傷した頃を思い出しながら､元気を出してもらえればと､地域での生活のことや外出の際の失敗談などを話しました。青年と家族の方達が笑顔で「ありがとう」と帰り際に言ってくれたとき、なぜか自分自身も勇気づけられたような気持になりました。まさに You are not alone を感じた一日でした。またこういう機会をつくり、まだ見ぬ頸損者に会っていきたいと思っています。

当日、来てくださった東京頸損会員の皆さん、ありがとうございました。役員の皆さん、お疲れ様でした。

国立伊東重度障害者センター文化祭に行って来ました！

東京頸損連絡会会長　鴨治　慎吾

日時　平成 20 年 10 月 25 日（土）１０：００～１５：００
場所　国立伊東重度障害者センター　　静岡県伊東市鎌田 222 番地

伊東の空は、文化祭には持ってこいの快晴で、とても心地良いなか２００８年度センター文化祭が行われました。

国立伊東重度障害者センターは国立の更生援護施設で主に頸髄損傷者で長期にリハビリができる施設です。

私も（Ｃ４不全）過去 2 年ちょっと大変お世話になりました。

昔はＣ５、Ｃ６あたりの方が多く、自己トランス、自己排便等、生活的自立が中心のリハビリが行われており、また、パソコンなどを使っての職能訓練も行われていたが、近年では電動車椅子レベルの頸髄損傷者も受け入れるようになってきています。

私の入所していた頃も電動車椅子を使った頸髄損傷者が 2～3 名ほどいました。

頸髄損傷者連絡会のなかにも何人かの方が伊東重度にいたという話を聞いたことがあります。

建物自体もかなり古く私が入所していた頃も居室改築工事など行われていたが、何年ぶりかに来てみると、さらに設備面で良くなってきていました。

居室（4 人部屋）は自動ドアとなり、カーテンも電動、テレビ・インターネットもできるようになっている。当時要望していた事がかなり実現してきているみたいでした。

また、最近では減ってきているみたいだが、喫煙ルームも完備されていた。

リハビリ中心の施設とは言っても介護員や各療法士だけでなく看護師も常駐している。また常設の診療所があり、医師もいて安心して長期のリハビリができる場所であります。

入所者のほとんどの方が頸髄損傷者であり、受け入れ先が少ない現状のなかでの数少ない更生援護施設だ。こういった施設が多くあればありがたいのだが…

短い時間ではあったが、懐かしい職員とも会え、とてもうれしかったです。

入所者のみで結成された保友会というものがあり、施設の改善や職員との協働のレクレェーション運営などを行っている。

今回の文化祭もいろいろな方に支えられ、とても良い文化祭でした。

体育館での車椅子スポーツのパフォーマンスでは激しいぶつかり合いなどを披露し、力強い頸損者も多くみられ、生き生きした姿が非常に印象的でした。

このあとに私の自立生活に至るまでや生活のうえでの経験、頸損連絡会のことについてお話をしました。

自分の体験談などをお話したあとの質問コーナーでは、やはり退所後のことや地域で生活することの大変さ、その対処法等について質問される方が多くみられました。

まだまだ頸髄損傷者のなかには様々な不安を抱いている方が多くいるなかで、頸髄損傷者連絡会としてもセルフヘルプ活動をより幅広く行い、横へのつながりを作っていければと思いました。伊東重度の皆様、楽しい文化祭を有難うございました。

↑

体育館にてお話をしてきました。

国立伊東重度障害者センター　　沿 革

昭和 28 年 1 月 1 日

・戦傷病者を対象の国立伊東保養所として開設。

昭和 29 年 4 月 1 日

・一般の重度身体障害者も入所対象となる。

昭和 39 年 4 月 1 日

・厚生省組織規程の改正により国立伊東重度障害者センターと名称改正。

平成 15 年 4 月 1 日

・　支援費制度導入に伴う所則等の改正。

四肢マヒ者の情報交換誌「はがき通信」懇親会 in 京都 2008

神奈川頸損連絡会　瀬出井　弘美

去る9月１９日（金）～２１日（日）の２泊３日で、昨年に引き続き京都の聞法（もんぼう）会館において懇親会を開催することができた。昨年も同じような時期に開催したが、９月下旬とは思えないハンパじゃない蒸し暑さにヘロヘロになってしまった。今年の心配はノロノロの台風１３号。当日までヒヤヒヤものだった。今年は、全国頸損連絡会の三戸呂会長にも日帰りでご参加いただいた。聞くところによると、三戸呂会長は“雨男”でいらっしゃるとか。“嵐を呼ぶ男”ならぬ“台風を呼ぶ男”であったか！？　しかし、実際は台風の影響もなく無事に終わり、ホ～ッ。松井和子先生、「はがき通信」創設者の故向坊弘道さん（２００６年お浄土へ旅立たれる）のスーパーヘルパーでいらしたOさんにもご参加いただいた。

懇親会も今年で１３回目になる。広報委員の麩澤孝さんがまだ療護施設に入居中に訪ねて行き、『はがき通信の仲間で集まれたらいいね』と話し合ったのはいつだったか。その後、１９９６年に第１回の懇親会が静岡の浜松で開催された。ちなみに“完全制覇”をしているのは向坊さんがお亡くなりになり、私だけになってしまった。２００４年には初めての海外懇親会でハワイにも行った。

「はがき通信」の編集委員を引き受けて早や１０年目……そもそも「はがき通信」って何？　の部分を少しお話すると、第１号は１９９０年２月に発行された。第１号の正式な名称は「葉書通信№１－高位頸髄損傷者の通信－」。Ｂ４判の紙の表と裏に印刷されたシンプルなものだった。（らしい）東京都神経科学総合研究所に勤務されていた松井先生と向坊さんが出会われたのが、年号がちょうど平成に変わった１９８９年。その当時はまだパソコンやインターネットも普及しておらず、当事者間の情報交換の必要性を痛感していたお二人は意気投合され、創刊前の１９８９年１２月、投稿を呼びかけるために数十名の四肢マヒ者に送ったハガキから「はがき通信」は始まった。

それから２０年近く何度か休刊、廃刊の危機に見舞われながら、そのつど向坊さんの強い意志で継続定期発行されてきた。向坊さん亡き後の懇親会も今年で３回目。会場に飾られた向坊さんの遺影は、生前のように穏やかに微笑んでいる。私たちをいつまでも見守っていてくださいと願う。

さて、懇親会のほうは１９日の１４時から開始挨拶の後、参加者スピーチから始まった。受付をしていた私、お越しになった三戸呂会長にご挨拶。参加費のおつりを仕舞おうとするタイミングを逃さず、すかさずニッと笑いながら『お願いします』とカンパ箱を厚かましく差し出す。『全部はカンベンしてよ、瀬出井さん』『ハイハイ、おいくらでも！』（半ば強制的に）カンパをいただき、本当にどうもありがとうございました！

１５時３０分からは、関西の“炎の頸損”宮野秀樹氏による講演。『I am Japanese.－本人も語りにくい海外旅行の裏話－』いったい

どんな語りにくい裏話が出るのかと楽しみにしていたら、そこまで辿りつかずタイムリミット。(笑) 続きは来年に持ち越し（？）ということになった。延々としゃべり続けられるんじゃないかと思うほどＣ４というレベルなのに、彼の肺活量は何とも恐るべし。

夕食レセプションの後はロビーで二次会。夕食を食べた後だというのに食うワ食うワ。M氏があきれていた。その後は恒例の（？）Ｉさんの部屋へ。差し入れのシュークリームを食べ、Ｓさんの介助者のH君とこの時間にカップヌードルはヤバイよねと言いつつ、お腹の中へ。気がつけば午前３時……。結局、寝不足が翌日の観光に響き、暑さとのダブルパンチでほとんど観光はできなかった私。まっ、皆さんにお会いできただけで楽しかったけれど。

「はがき通信」は頸損連絡会とだぶる部分はあるが、長年の間に独自のネットワークを築き上げてきた。(創設者の向坊さんがいなくなった痛手はとても大きいが) パソコンが普及しインターネット時代になり、重度障害者も自宅にいながら情報や知識は確かに格段に得やすくなった。なくてはならない必需品のひとつと言ってよいだろう。そのせいか原稿も減り、原稿集めには苦慮している。しかし、『今年も元気に会えてよかったね』と実際に顔を合わせて語り合い、交流するに勝るものはない。全国頸損連絡会もセルフヘルプ活動の重要性を掲げている。

資金的に厳しい面もありますが、今後も年に１度全国の仲間が集うチャンスである懇親会を継続してゆくことができたらと願っております。「はがき通信」は会員制ではなく、購読者グループというゆる〜い集団です。人間（？）であれば懇親会にどなたでもご参加いただけます。来年も秋ごろの開催予定です。もしよろしかったら是非ご参加ください。

福島頸損友の会画伯＆こまどり会員合同絵画展「感じるままに！」

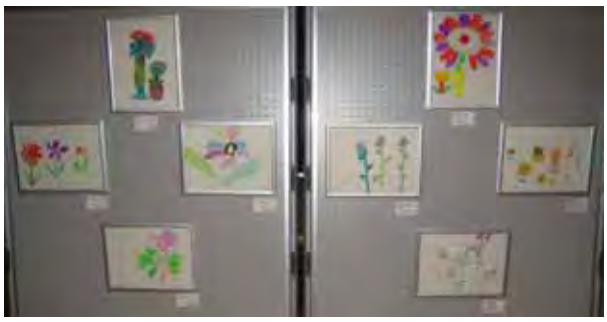
「福島頸損友の会」代表（東京頸損連絡会会員）相山敏子

本年７月１９日(土)、夏、全国各地の頸損仲間たちからミラクルパワーと激励と祝福を受けて発足・お披露目させて頂いた私たち「福島頸損友の会」、会員７名でスタートしてから現在９名、まだまだ活動と言えるほどのこともできずにおりますが、まったりゆったりほのぼのと、私たちならではの〈友の輪・絆〉を少しずつでも広げていきたい、つなげていきたいと前向き奮闘中です。今はまだ手作り「友だより」だけで精一杯、先ずは地域で生きる私たちの存在を知って貰いたいですね。

今回は、なかなか会えない仲間たちとの親睦会をめざして、「友の会」の画伯・渡部洋祐さんとこまどり会（只見町）の合同絵画展『感じるままに！』をご紹介、紅葉まっ盛りの只見をご訪問させて頂いたご報告です。

殆ど出かけることが困難な私ですが、兄の運転でいざ！なんと広いわが故郷・福島県、先月開通したばかり国道 289 号線「甲子道路・甲子トンネル」を初めて通り、山里への観光客の賑わいの中に埋もれてようやく秋深い紅葉の季節に気づき、つくづくと世間の風景、風物詩を堪能しながらの２時間半、私にとっては大旅行です。

会場：只見町「川のものしり館」…とても広い！



「友の会」にはもう一人、絵てがみを描かれる仲間がおります。いつかご紹介できればと思います。

おなかに肛門が出来ちゃった！
～ストーマレポート・その①～

兵庫頸損連絡会　宮野　秀樹

今年の 3 月に人工肛門（以下、ストーマ）造設手術を受けました。術後、約半年が経過しましたので自身の振り返りと情報提供のため報告します。

なお、この報告は私が調査・体験したことを元にした情報ですので、必ず正しいという保障はありません。また、決してストーマ造設を勧めるものでもありませんのでご了承ください。

○ストーマ造設までの経緯

私がストーマに興味を持ったのは昨年の 1 月のこと。大阪頸髄損傷者連絡会の新年会に来ていた友人がすでに造設手術を受けており、その様子を聞かせてもらったとき「めっちゃエエからやったほうがいいで！世界が変わるから！」の一言が頭から離れなくなってしまいました。友人は仕事の都合上、排泄に週末を費やしてしまうこと、また排泄時に自律神経過反射などで疲労困憊になってしまうことが理由でストーマ造設を決心したとのことでした。膀胱ろう造設以来、“ 体を造り替える ” ことに抵抗のなくなった私は、その日からストーマ造設者にいろいろと聞いて回りました。

当時の私の排泄状況は 3 日に 1 回のペースで、前日に下剤を飲み、次の日の朝にシャワーチェアに座って浣腸 3 本を使い、約 2 時間かけておこなうというもの。排泄の苦労する頸損者は多いと聞くが、私の場合は排泄自体に問題はなくすんなりと出てくる。もちろん排泄を終えた後の疲労感は強いものがありました。ベッドに上がると疲れから眠ってしまい、半日を疲労回復に費やすということが当たり前で非常に煩わしさを感じていました。もっと困っていたことは排便コントロールしていても “ よく出る ” ということ。下痢止めを服用しても出る。辛い刺激物を食べても出る。家の中であれば「出る」と感じた瞬間にリフターで体を吊り上げれば間に合うことは多かったけど、外出時などは食事をする度に下痢止めを服用するなど不安が尽きず、精神的疲労は相当なものでした。

セルフヘルプ活動で外泊・外出の多い私には、出先で失便の心配をするということが本当に煩わしくて仕方がなかった。この “ 煩わしさ ” こそが私にストーマ造設を決意させた理由の一つです。

○情報収集

最初にストーマ造設を決意したのが昨年の 6 月頃だったと思います。この時の決意度は 6:4 の割合でしょうか。もちろん「やる」が 6。残りの 4 は造設者への調査で埋めることに。ただリサーチをかけてみると面白い結果が得られました。造設者本人に直接聞いたら、いろいろと苦労はあるけれどほとんどが「やって良かった」という意見。しかし、“ 友人がストーマにしている ” とか “ ストーマにしている人を知っている ” という又聞きの人たちからは「後悔しているらしい」という意見が大半でした。デメリットとして上げられる理由に一番多かったのが「フランジ（面板：皮膚に貼り付ける装具）で皮膚が激しくかぶれる」「臭いが漏れる」というもの。ケアの大変さが一番のネックだとデメリットの意見では感じられました（もちろんそれだけではありませんが）。

ただ、それ以上に私の心を引きつけたのは「排泄の時間がなくなった」「食べるものに制約がなくなった」「気軽に外出ができる（特に長期外泊）」というメリットの意見。正に私が求めているものですね。もちろん「下痢の時は大変」「ガス抜きや便処理が手間」「皮膚がかぶれる」「臭いが漏れる」という苦労の部分も “ やって良かった ” 組みからは聞きましたが、どちらかといえばケアに工夫や注意を払うことによってクリアできるように考えられることだったので、この時点で決意度は 8:2 の割合まで埋められたと思います。

私がこの時点で最も不安だったのは、話を聞いた人の誰もが「頸損は全身麻酔での手術となるため、呼吸確保のため人工呼吸器を口腔挿管（口から喉に通す）される。全身麻酔にはリスクが多い。麻酔から覚めたときに “ エライ目 ” に合う人が多

い。特に喫煙者は…」と口にすることでした。もちろん「特に問題もなく大丈夫だったよ」という人もいましたが、ほとんどの人がが「しんどいよ（しんどいらしいで)」と溜息をつきながら話すのを聞くと、正直これに一番ビビリました。だって喫煙者なんだもん…。どうしんどいのか？どんなリスクがあるのか？言葉で聞いてもなんとなくしかわかりません。また、術式に「単孔式」「双孔式」というものがあるらしく、一つの穴か二つの穴を作るらしいのですが、これにも人それぞれどちらがよいとは言えないもので、自分にあった術式を選ぶ必要があるらしいです。う〜ん、簡単に手術して「ハイ、出来上がり」ってワケにはいかないようですね。造設者に聞けば聞くほどあれこれ迷うので、とりあえず病院に相談してみようとどの病院がよいか聞いてみました。すると何名かの人から私には耳慣れないことを教えてもらいました。「WOC（ウォック）がいる病院が良いよ」と。

〇WOC との出会い

WOC って何？という方に解説しておきますね。ちなみに私が情報提供する WOC とは WOC 看護認定看護師のことです。『Wound（創傷)』『Ostomy（ストーマ)』『Continence（失禁)』の頭文字をとって WOC。褥創や人工肛門・人工膀胱（オストミー）および失禁といった特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践をおこなうための認定審査に合格した看護師のことだそうです。WOC の良いところは専門領域の問題について、様々な病院の WOC が持ち得ている医療情報を収集し、より専門性の高い医療を提供してくれるところだと思います。

まず WOC がいる病院を探しました。日本看護協会のホームページから兵庫県の WOC 登録している看護師を調べてみると、なんと私が受傷時にお世話になった病院にいることが判明。WOC 相談室なるものがあったので早速申込んでみました。ストーマの造設を考えている旨を伝え、私の障害について、現在の身体状況・排泄状況、なぜストーマを増設したいのか、不安点・疑問点等々そのときに思っていたことをぶつけてみました。

ひとつ自信がなかったのは「排泄自体に問題はないが QOL 向上のために手術したい。常に気にしなければいけないという煩わしさから逃れたい。」というメンタル的な理由を理解してもらえるか？でした。でも、そんな心配はどこへやら、実にスムースに WOC は受け入れてくれました。こんな田舎で障害当事者のメンタル的な問題を理解してくれる人がいた、ということでもう決意は固まっていたのかもしれません。この後に WOC と進めていった作業は、双方ともに宿題を持って、次回の相談時に不安や疑問を埋めていくということ。私は造設者からさらに情報を収集して不安や疑問を WOC に投げかける。WOC は頸損者のストーマ造設をおこなった病院の WOC から情報を収集して私の質問に答えていく。単純で当たり前のことに聞こえるかもしれませんが、“ 前向き ”な方向で進んでいくことがどれだけ安心感を高めていくかということをあらためて認識しました。

〇いよいよ手術

9 月から 11 月にかけて計 6 回の相談を重ね、消化器外科の診察を受けて医師との確認もおこない、術式は双孔式、必要入院期間を約 3 週間と決めて手術をおこなうこととなった。ところがここで誤算が生じ、当初私が希望していた手術の時期が年明けの 1 月だったのですが、手術予約が詰まっており希望月での手術は無理ということに。仕事と活動の諸事情も絡み、結局手術日は 3 月後半になることが決定した。…というところで今回の報告は終わりです。次号、手術から現在に至るまでを報告します。宮野のオペは無事成功するのか？日常生活で起こったハプニングとは？乞うご期待！

ストーマの位置（フランジとパウチ装着図）

頸髄損傷者の中間期（春季・秋季）の望ましい室内温度

東京頸髄損傷者連絡会　三上功生（東京理科大学）

1. はじめに

頸髄損傷者（頸損者）は、ほぼ全身に及ぶ発汗障害など極めて重度の体温調節障害を持つことから、頸損者にとって望ましい室内温度を季節毎に検討していきたいと考えております。そこで、まず中間期（春季・秋季）の望ましい室内温度を人工気候室実験より検討しましたので、その結果についてご報告致します。

2. 実験方法

人工気候室とは、温度や湿度を自由に調節できる実験室のことです。人工気候室内の温度を 19℃, 21℃, 23℃, 25℃, 27℃, 29℃, 31℃、湿度を 50%に設定し、春・秋用の衣服を着た頸損者と学生に入室してもらいました。曝露時間は 1 温度設定につき 90 分としました。人工気候室内では、体温、皮膚温、血圧、脈拍、主に発汗量を調べるための体重減少量を測定しました。被験者数は頸損者が 17 名、学生が 37 名です。実験風景の一例を写真 1 に示します。

写真 1　実験風景の一例

3. 実験結果及び考察

3-1. 体　温

各室温における学生と頸損者の体温（平均値）を図 1 に示します。また、図の中には一般的に平熱といわれている温度範囲 36.0～36.9℃をあわせて示します。学生の体温はほとんどの室温で平熱範囲内にありました。一方頸損者の体温は、室温 27℃以上では平熱範囲の上限付近あるいは上限以上であり、また室温 21℃以下では、平熱範囲の下限付近あるいは下限以下になっていました。頸損者の体温が余裕を持って（表現方法は変ですが･･･）平熱範囲内にある室温は 23℃及び 25℃であることから、頸損者にとって中間期の望ましい室内温度は 24±1℃（但し湿度は 50%）であることが考えられます。

3-2. 手部・足部皮膚温

各室温における学生と頸損者の手部及び足部皮膚温（平均値）を図 2, 3 に示します。室温 21℃以下の頸損者の手部皮膚温は、学生より高くなっていました。また足部皮膚温は、全ての室温で頸損者の方が高い傾向にありました。

人体は低い温度にさらされると、体から熱を逃がさないようにするために、手足部の皮膚温が下がります。これは手足部の血管が収縮し、流れる血液の量が少なくなることによるものです。室温 21℃以下の頸損者の体温は、平熱範囲の下限付近あるいは下限以下になっていました。これは頸髄損傷による手部及び足部の血管収縮障害のために、手足部の皮膚温が下がらず、その結果、手足部から多くの熱が逃げてしまったことが原因と

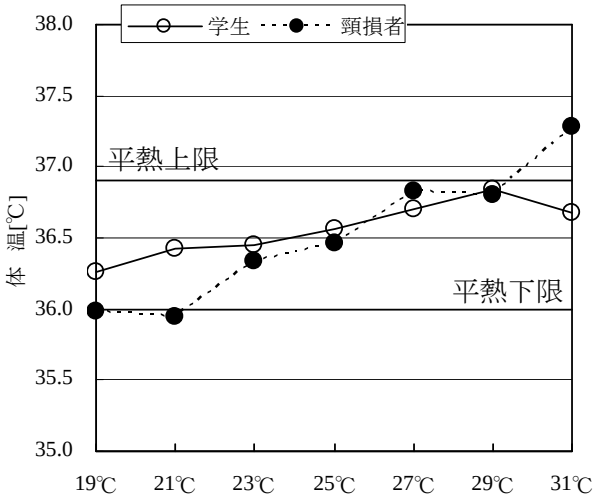


図 1　各室温での実験終了時の体温

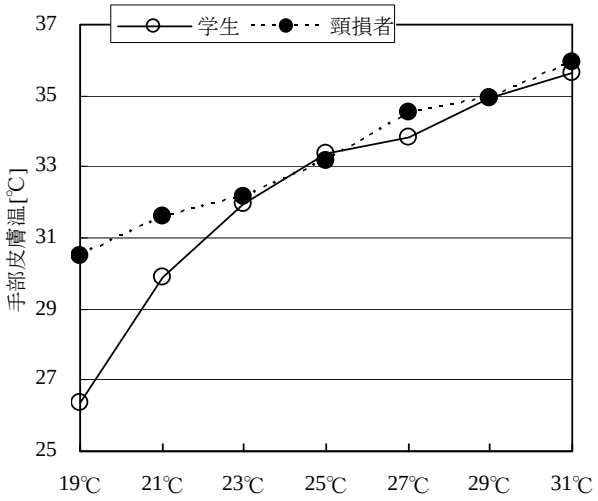


図 2　各室温での実験終了時の手部皮膚温

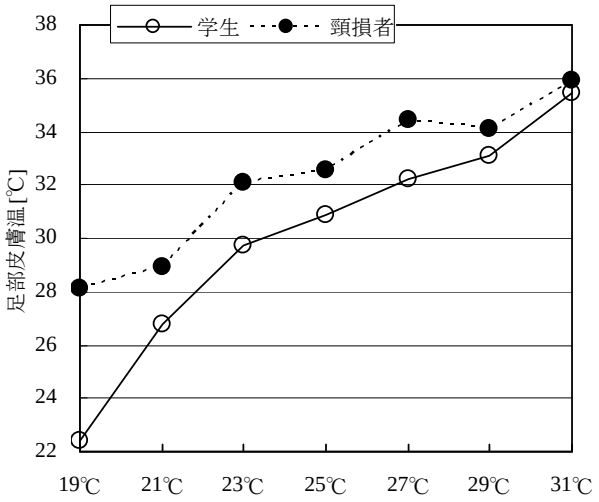


図 3　各室温での実験終了時の足部皮膚温

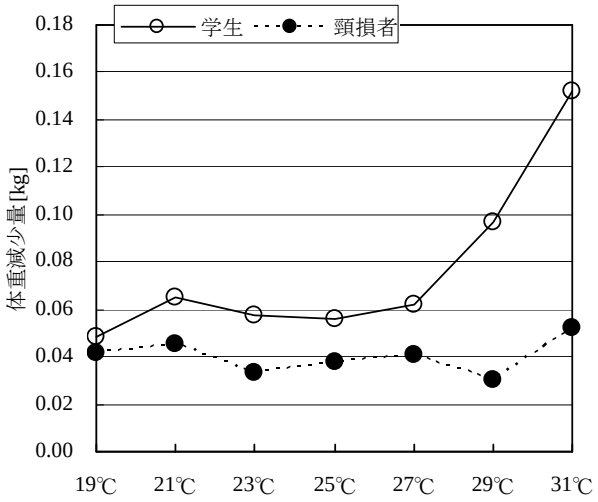


図 4　各室温での実験終了時の体重減少量

考えられます。

3-3. 体重減少量

体重減少量とは、実験開始時の体重から実験終了時の体重を差し引いたものです。体重が減少した分は、水分として体から蒸発したものと解釈します。各室温における学生と頸損者の体重減少量（平均値）を図 4 に示します。学生の体重減少量は、室温の上昇に伴い大きくなる傾向がみられました。特に室温 29℃以上では大きくなっており、これは発汗の影響と考えられます。一方、頸損者の体重減少量は全ての室温で学生より小さくなっていました。頸損者の体温が室温 27℃以上で平熱範囲の上限付近あるいは上限以上であったことは、頸髄損傷によるほぼ全身に及ぶ発汗障害の影響と考えられます。

4. まとめ

人工気候室実験の結果より、頸損者の中間期（春季・秋季）の望ましい室内温度は 24±1℃（但し湿度は 50%）であると考えられます。従いまして、中間期の室温調整の目安にして頂ければと考えております。但し注意して頂きたいことは、あくまで頸損者を平均的にみた分析結果であることから、全ての頸損者には当てはまらない可能性があるということです。今後は夏期及び冬期の望ましい室内温度の検討を行いたいと考えております。何かご意見、ご感想等がございましたら下記の連絡先までお願い申し上げます。

＜連絡先＞

住所　〒278-8510　千葉県野田市山崎 2641

東京理科大学理工学部建築学科　三上功生

E-mail：kosei@rs.noda.tus.ac.jp

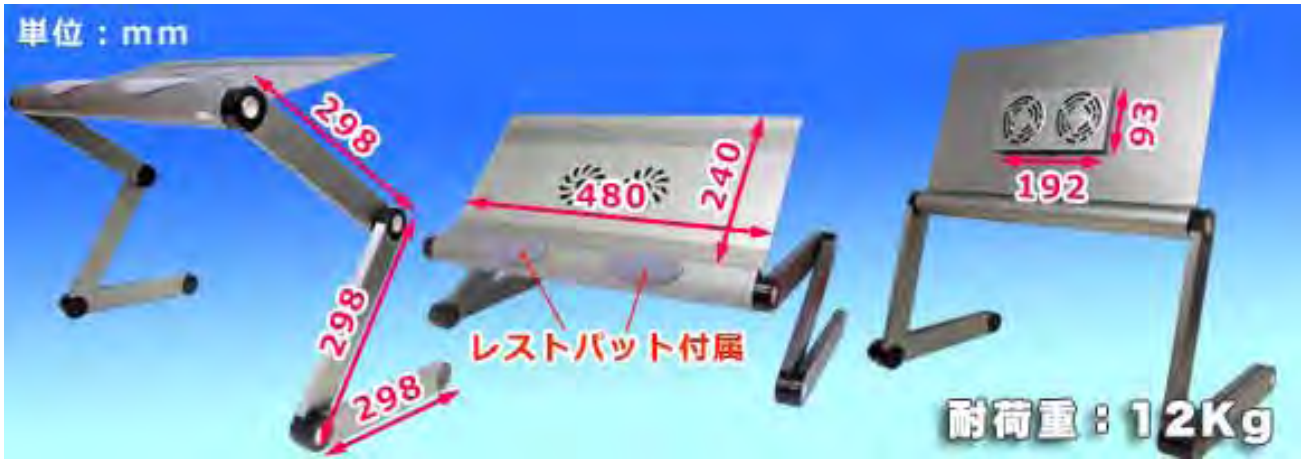
お役立ち！？

東京頸損連絡会会長　　鴨治　慎吾

今回のお役立ちはパソコン関係を中心にお役に立ちそうな物をピックアップしてみました。

◎商品名　**ゴロ寝 de スクアルミＥＸ**　　型番　ＧＤＲＯＥＥＸ
マウススティック等でノートパソコンやキーボードを使用する人に…高さや角度も可変します。価格もお手ごろです。　　価格７，９８０円↓

◎商品名　**ゴロ寝 de スクＣＯＯＬ２**　型番ＧＤＲＯＤＣＬ２　価格８，９８０円↓
少し大きくてファンも付いて、耐荷重１２ｋｇまで乗ります。



◎商品名USB CAFE PAD with HUB（ACアダプタ無し）→
※バスパワー動作のみとなります。

「ＵＳＢ　ＣＡＦＦ　ＰＡＤ」は文字通り、パソコンのＵＳＢポートへ接続することにより、暖かいコーヒーや紅茶、日本茶、白湯、ジュースなどのカップやカンを置いておくだけで飲み頃の約４５度前後に保つ事ができる保温器具です。これから寒い季節にどうですか？
幅 110 x 奥行き 110 x 高さ 12㎜（パッド全体）
保温部（金属部分）直径 72 ㎜　価格１，９８０円　←

◎商品名　**クリップモニターアーム DX**

ベッドに寝ながら見ることなどが可能になります。

取り付け可能モニターサイズ　最大 24 インチワイドモニター　　耐荷重　12Kg

対応モニター　VESA 規格対応 (75mm x 75mm または 100mm x 100mm)

価格　７，９８０円　　↓

◎ 商品名　**ゴロ寝deスクトップ　→**

頸髄損傷はベッドで過ごす方も多いと思われます。ベッド上でもノートパソコンではなく、デスクトップパソコン（液晶）ができるようになります。

モニター部

345～480mm (調整可能) までのモニター

キーボード部

縦 135～225mm (調整可能)、横 約 700mm

マウス台　200 x 200mm

パソコン設置台

横 0～200mm (調整可能)、縦 制限なし

アーム部 (高さ)　560～800mm (調整可能)

◎　商品名　**USB なんでもマイクロスコープ**

←

耳の中や頭皮など、自分で見えない所や見づらい所などにどうでしょう？

倍率３０倍（１７インチディスプレイの場合）

価格１２８００円

今回は“ レアモノショップ　サンコー ”http://www.thanko.jp/のホームページの中から役に立ちそうな物を中心に掲載してみました。まだまだ、他にも色々あると思います。

詳しい事は“ レアモノショップ　サンコー ”http://www.thanko.jp/を参照してください！

こんなもの見つけたよ、これって使えそう！！など有りましたら、編集部までドンドン、ご連絡下さい！

お役立ち　その②

車椅子事情

東京頸損連絡会会長　鴨治慎吾

私達、ほとんどの頸髄損傷者にとって、車椅子は生きていく上で必要不可欠である。
同じ頸髄損傷者でも、レベルによって、多種多様の車椅子が必要となる。

また、私達にとって足となる車椅子。毎日乗る事が普通でなければならない。乗るたびに違和感や苦痛を伴ってしまっては、有効な補装具とは言えない。毎日、健常者と同じように活動できるものでなければいけない。

しかし、大抵の場合、自分にあった快適な車椅子に乗れていない事が多いのではないだろうか。また、生活していく上で、自分にあった必要な機能あるいは装具が見えてくる事があるのではないだろうか。

ここでは、簡単に基本的な車椅子入手までの流れを記していこうと思う。
まず、身体障害者手帳を持っていることが前提となる。各自治体の福祉事務所（区市町村の障害福祉の窓口）で補装具支給の相談する。

しかし、事前にリハビリテーション病院などの医師や理学療法士（PT）・作業療法士（OT）に自分にあう車椅子を作るための相談をしておかなくてはならない。
場所によっては、じょくそう予防のための座圧測定や、シーティングクリニックがあるので、なるべく専門病院に相談したほうが良いと思われる。この時にはっきりと自分の必要性を伝える事が必要である。
「特殊なジョイスティックが必要」・「起立性低血圧などがあるため、リクライニング*1 が必要」・「けいせいや変形があるためシーティング（座位保持）やティルト*2 が必要」・「足が浮腫むため足上げ機能が必要」など。

＊1　リクライニング　背もたれの角度を変えることができる事
＊2　ティルト　座席と背もたれが一定の角度を維持した状態で角度を変えること

申請を行った後、適合判定というものが行われる。基本的に各都道府県の心身障害者福祉センター・判定所などに来所して行わなければならない。後に判定結果が福祉事務所等に送られてくる。
また、基準交付以外にも必要性が認められるものに関しては、交付される場合がある。
変形やじょくそう予防のための座位保持装置等がある。

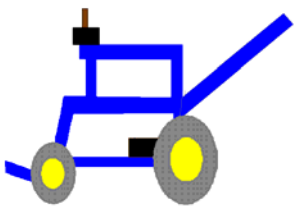
交付されたものについては、消耗品（タイヤ等）や故障については、修理ができる。

これらのことについては、自立支援法により所得によってだが、負担金が生じる場合がある。
車椅子もやはり消耗品であり、長きにわたって使用すると、故障も起こりやすくなる。そのための目安として使用期間、手動車椅子が５年、電動車椅子が６年と言われているので、安全面においてもこの位の期間で新たに購入を考える人も多い。

最近は、国内メーカーの性能も向上してきているが、海外のメーカーを望む方も多く見られる。未だに、輸入車椅子に関しては、高価なものが多いが、中には性能も良いうえ、低価格なものも出てきている。詳しくは各ホームページ等で調べて下さい。

車椅子作成業者の選定だが、各車椅子メーカーによって得手不得手がある場合があるので、事前によく調べておく必要があると思われる。

リクライニング
↓



ティルト
↓

お役立ち　その②

近年では高位頸髄損傷者もレスピレーター（人工呼吸器）を使用して外出することも増えてきている。多くの方が介助用車椅子にレスピレーターを搭載しているが、中には電動車椅子に搭載して活動されている方もいる。

コントローラーも多種多様で今では高位頸髄損傷者定番のチンコントローラーだけでなく、ヘッドコントローラーや呼気スイッチ式コントローラーなど各障害レベルに合わせたコントローラーも色々と開発されている。

昨年では、カナダから横隔膜ペースメーカーを使用して、全国頸髄損傷者連絡会総会に参加された方もいる。

また、手動車椅子も一昔のような介助型車椅子にハンドリムがついたものではなく、漕ぎやすく、見た目もスタイリッシュになり、トランスファーなどを考えて作られたものや、握力のない頸損のために、ハンドリムにゴムコーティングをして漕ぎ易くしたもの、キャスターにサスペンションを付けたものなど、かなり良くなってきている。
重量も軽く、自動車を運転する頸髄損傷者にとっては、車椅子の積み込みも容易になっている。
国内メーカーを使用する方もかなり多い。

最近では新バリアフリー法もでき、駅や公共機関も設備が良くなりつつあり、以前よりは使いやすくなってはきている。
今の所、頸髄損傷には完全な治療法は確立されてはいないなか、生活する上では車椅子等を使わざるを得ない。
もっともっと良いものができ、誰もが使用また入手できる車椅子ができてほしいものだ。

車椅子メーカー

手動車椅子

（株）オーエックスエンジニアリング　本社
〒265-0043　千葉県千葉市若葉区中田町2186-1
TEL 043-228-0777　　FAX043-228-3334
e-mail　sales@oxgroup.co.jp
HPアドレス　　http://oxgroup.co.jp/wc/

日進医療器株式会社
愛知県北名古屋市沖村権現35-2　本社
TEL (0568)21-0635（代表）
HPアドレス　http://www.wheel-chair.jp/
（ホームページ上にメールボックスがあります）

日本ウイール･チェアー（株）
〒188-0014　東京都西東京市芝久保町2-22-31
TEL　0424-63-1511
HPアドレス http://www.nihon-wheelchairs.co.jp/

株式会社　松永製作所
岐阜県養老郡養老町大場484番地
TEL 0584-35-1180　FAX 0584-35-1270
HPアドレス http://www.matsunaga-w.co.jp/index2.html

電動車椅子

株式会社今仙技術研究所　（株式会社今仙電機製作所）
愛知県犬山市字柿畑1番地
TEL(0568)67-1211（代表）FAX(0568)67-3418
HPアドレス　http://www.imasengiken.co.jp/
（ホームページ上にメールボックスがあります）

スズキ株式会社
〒432-8611　静岡県浜松市南区高塚町300
TEL 03-3653-8422 【（株）スズキ自販東京】
HPアドレス　http://www.suzuki.co.jp/welfare/motorchair/frame.htm
（ホームページ上にメールボックスがあります）

昭和貿易株式会社ヘルスケア営業部（インバーケア社）
〒103-0023東京都中央区日本橋本町4丁目13番5号　第20中央ビル8Fヘルスケア営業部
TEL(03)5623-5396(代)　FAX(03)5623-5398
HPアドレス　　http://www.showa-boeki.co.jp/hd/
（ホームページ上にメールボックスがあります）

株式会社アクセスインターナショナル（クイッキー社）
〒173-0012 東京都板橋区大和町23－3　福井ビル
TEL 03-5248-1151　FAX 03-5248-1161
info@accessint.co.jp

支部紹介　　NPO 法人京都頸髄損傷者連絡会

会長　古屋 祥宏

全国の皆様方・各支部を支えて頂いているボランティアさんを初め、関係者の方々、何時もありがとうございます。

簡単に私のプロフィールからお話をさせて頂きます。私は和歌山県田辺市と言う小さな町に生まれ、12 年前に自立生活をするために京都の地に来ました。当初の生活は介助者もいなく大変でしたが、仲間に支えられながら 2 年前に先輩の意思を引き継ぎ、「京都の社会を私が変えてやる！」との思いから、自ら会長という立場を選び現在に至ります。

私たち NPO 法人京都頸髄損傷者連絡会は、「より重度な障害のある方の自立生活を確立しよう！」のスローガンを掲げ 1982 年に設立し、今日まで活動を続けております。スローガンには、「重度な障害のある方が安心して生活できる社会は、障害の有無にかかわらず、だれにとっても安心して生活できる社会になる。」という思いを込め、正会員 61 名・賛助会員 20 名のメンバーで構成しています。年間の行事・活動として、地域との交流・京都府・京都市への行政交渉・大阪頸髄損傷者連絡会との交流会・毎月 2 回の月定例会等を主に活動しています。2008 年 4 月には、「障害者の権利条約」についてシンポジウムを行いました。

自立支援法施行後、京都では、訪問看護ステーションの 3 割負担の問題・重度訪問介護の受けて頂ける事業所が少ない・身体介護と重度訪問介護の併用利用が出来ない・高位頸損者が入院出来る病院がない等、問題と課題が沢山あります。又、「地下鉄・市バスの乗務員等の対応が悪い」等が生じていますが、スローガンに掲げているように、自分たちの手で社会を変えて行いっています。

これからの課題として、「障害を持つ仲間達が安心して生活出来る環境作りとは?・」を考えながら、再来年の全国総会に向けて会員が一段と手と手を繋ぎ、どこの支部にも負けない京都支部を作り上げていきますので、応援の程宜しくお願いします。

これからますます寒い時期になりますので、風邪等引かぬようお互いに気を付けましょう。

理事の小森さん

会計の山中さん

古屋です

理事の木村さん

第 35 回「国際福祉機器展 HCR 2008」が開催される

9 月 24 日～9 月 26 日　　東京ビックサイト（東京・有明）

国際福祉機器展の 3 日間通しての来場者は 120,773 人だったそうです。頸損連絡会の会員さんも、多数見学されていました。福祉施設の事故防止に関する講座、福祉機器選び方、使い方セミナーを開催したほか、コミュニケーションセミナーなど、多数の参加がありました。

平成 21 年の「第 36 回国際福祉機器展 H.C.R.2009」は、平成 21 年 9 月 29 日(火)～10 月 1 日(木)にかけて、東京ビッグサイトにて開催いたします。

【国際福祉機器展会場で当事者向けセミナーを行いました】

9 月 25 日　11:30～12:30　ワークショップＣ会場

テーマ：「間違いだらけの床ずれ予防」　講師：松尾清美（日本リハ工学協会 理事長）
主な参加者：障害を持つユーザー、エンジニア、支援者、OT、PT、ヘルパー

今回は日本リハビリテーション工学協会の出展社セミナーで「床ずれ予防」を題材にセミナーを行いました。

80 名の参加者を見込んでいましたが 100 名を超える参加希望者が集まり、会場に入れず、多くの方にご迷惑をかけてしまいました。

床ずれ予防クッションやエアーマットには多くの種類がありますが、どれが自分に合っているか？　選択にもやはり専門家の助言は不可欠です。もちろん、ユーザー自身の知識も必要です。ユーザーそれぞれの適合がありますが、事例紹介や用具の活用を通して情報を共有するためにもう一度みなおしてみる良い機会になりました。参加された方、ありがとうございました。

主催 日本リハビリテーション工学協会　　担当 麩澤　孝

リハ工学カンファレンスin新潟
～やっぱ生牡蠣は越乃寒梅に合うわ～

兵庫頸損連絡会　宮野　秀樹

去る8月27～29日に新潟県新潟市は朱鷺メッセ:新潟コンベンションセンターにて第23回リハビリテーション工学カンファレンス（以下、カンファレンス）が開催され、参加してきましたので報告いたします。

思えば遠くへ来たもんだ

開催地が全国的なため、行ったことのない土地に行けるのがリハ工カンファレンスの醍醐味。人生初の新潟にちょっとテンションは上がり気味。同じく人生初でお隣の福島県を1ヶ月前に「福島頸損友の会交流会」で経験しているので「距離的にも同じ感じだろう」と高を括っていたのが間違い。めちゃくちゃ遠いですね、新潟は(汗)　飛行機嫌いの私が選択した移動方法は新幹線。朝8:00に家を出発して朱鷺メッセに着いたのは16:30。総移動時間8時間半の内、新幹線移動が5時間超。一昨年バンクーバーに行った時にかかったフライト時間は8時間半。新潟を日本のバンクーバーに認定したいと思います(笑)　移動にこれだけの時間を費やすのは久々でしたので正直疲れましたね。帰りもあるのかと思うと…

ようきなった新潟！

日本海側唯一の政令都市「新潟市」。JR新潟駅から電動車いすで15分､市内を流れる日本一長い川「信濃川」の河口部にあり、周りの景色を一望できる（日本海を臨めば佐渡島を目にすることができる）大変環境の良い場所にカンファレンス会場である朱鷺メッセがありました。今回の大会テーマは「「QOL for ALL(全ての人の生活の質の向上)」。高齢者や障害者の生活の質の向上には、日々の生活を支える福祉機器・用具が重要な役割を果たします。人と機器と環境の適合に関わる支援技術の専門家として、QOL向上にどうのようにリハ工学を活かしていくかを考えるといったところでしょうか。

テーマ的には我々QOL向上を必要とする障害当事者にはうってつけのもの。でも何故か障害者の参加数が少ないのが気になりますね。遠方の地というのが理由かリハ工が人気無いのか、はたまた新潟が……なんにせよこの傾向は今回に限ったことではないというのがまた寂しい。

カンファレンス報告

今回のカンファレンスに参加した私には2つの使命がありました。一つは来年3月7日に神戸で開催する全国頸髄損傷者連絡会・日本リハビリテーション工学協会合同シンポジウムの宣伝、もう一つは市民公開講座DVDの宣伝頒布。各セッションで演題発表を聞きながら、わずかな合間に宣伝とDVDの手渡し。人工呼吸器ユーザーの活動やその取り組みはリハ工関係者にも非常に関心が高く、合同シンポジウムにつながる期待は高まりました。

セッションについても触れておきましょう。

鮭澤さん発表報告風景（熱心な宮野の図）

私が発表を聞いたのは「社会活動」「車いす・バリアフリー」「意思伝達装置と環境制御装置」「社会参加支援」のセッション。「社会活動」では新潟中越沖地震の被災地を持つ県での開催とあって、震災や災害時での高齢者・障害者への支援技術対応報告が多かったです。「社会参加支援」では我らが麩澤孝さんが今年の 3 月に開催した第 1 回合同シンポジウム「福祉機器の格差を考えるー 地域と生活ーの報告と今後の展開」を発表報告してくださいました。リハ工と当事者間の連携の重要性を訴える意味で良い報告であったと思います。インタラクティブセッションという発表者と参加者が 1 対 1 で対話できるセッションも見て回りましたが、「筋ジストロフィー患者のためのゲーム機インターフェースの開発」や「視覚障害に配慮した碁の開発-ユニバーサルデザインの視点から-」等の余暇を楽しむための発表報告が多かったのが印象的でした。

セッションとは別に「福祉機器・用具と支援技術による QOL の向上」がテーマのシンポジウムにも参加。新潟県阿賀野市のフィンランドプロジェクト※1 の報告が行政の積極的な取り組み事例として印象に強く残りました。5 人のシンポジストが報告されましたが、皆そろって「これからはマンパワーが必要だ！」と口にされていたのが皮肉っぽく聞こえて可笑しかったです。

今回のカンファレンスは私らしく真面目に発表を聞いて過ごしたという感があります。朝から晩まで人の話を聞くのは辛いですね(笑)

美味い酒と海の幸

はい、お待たせしました！宮野の報告にこれがないとつまらないですよね。当然楽しんできましたよ、新潟の夜を(笑)　名古屋で手羽先を求めて彷徨った反省を活かして、今回は初日の夜に新潟の海の幸を堪能してきました。

まずは麩澤さんとともに夕暮れの信濃川縁散策。重要文化財である「萬代橋」を遊走し、JR 新潟駅北側・弁天町にある大衆割烹「肴や魚・大助」に。たまたま入った店なのにホームランでしたね（表現が古い…）大助タル盛りには鯛・マグロ・ブリ・ヒラメ・アジ・海老・イカ・タコ・バイ貝・ホタテ・クラゲ？と刺身の祭り状態。新潟えご（福岡のおきゅうとのようなもの）や栃尾油揚といった地のものを肴に地酒を流し込む。生きてて良かったよ It's the greatest! その中でも私を感激させたのは「天然岩牡蠣」夏の牡蠣は小振りが定番かと思いきや、出てきたのは「デカッ！」と驚くほど丸々と海の恵みが詰まった大きなものでした。ポン酢やレモンなど加えずにそのままいただく。芳醇な磯の香りと甘みがキターッ！地球に生まれてヨカッターッ！もう牡蠣フライは食えないヨーッ！（食べました。これも美味かった）バカな男の夜は更けていく…（まだ初日なんですけど…）

さてさて、第 24 回リハ工学カンファレンスは 2009 年 8 月 26～28 日の日程で埼玉県所沢市にある国立身体障害者リハビリテーションセンターにて開催されます。障害者のみが発表報告できるセッションも企画予定ですので、来年はみんなで乗り込んで盛り上がりましょう！

へぎそば・上天へぎ（関係ないけど美味かったの図）

※1 フィンランドプロジェクト

新潟県阿賀野市が整備を予定している高福祉住環境のモデル地区や施設に、先進的なフィンランド型福祉の技術・ノウハウを導入することを始め、フィンランド共和国の協力のもと、高齢者が介護を必要とせず、在宅で自立した生活を送ることができる、市としての独自の取り組みを進めていくプロジェクト。

リハ工との共同開催でお届けする第 2 弾の合同シンポジウムもお知らせいたします。面白い企画満載でお待ちしておりますので、来年神戸に是非来てくださいね。

第２回　全国頸損連絡会・日本リハ工学協会 合同シンポジウム　開催案内

テーマ：「外に出ようや！～様々なバリアを乗越えて外に出るための工夫～」
内 容 ：重度障害者が外へ出るということについて、様々な角度から考えるシンポジウムです。
このシンポジウムまでに頸髄損傷者数名が、「実現したいこと」に取り組みました。それは旅行、一人暮らし、電動車いすを使用することなどなど様々ですが、その取り組みの様子を写真や映像と共に報告します。
そこには制度、環境、サービスなど多くの課題が見えてきました。
その課題をパネルディスカッションで参加者の皆さんと解決に向けて議論していきたいです。
日 時 ：　２００９年３月７日（土）10:30～17:00
会 場 ：ニチイ学館神戸ポートアイランドセンター（神戸市中央区港島南町７丁目１番地５号）
大会議室、ホワイエ（機器展示）
参加費：一般￥1,000－ 学生/当事者￥500－ (資料代)
主 催 ：全国頸髄損傷者連絡会、日本リハビリテーション工学協会
後援(予定)：兵庫県・神戸市・神戸学院大学・神戸芸術工科大学・兵庫県立総合リハビリテーションセンター・兵庫県リハビリテーション協議会・兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所・(社)兵庫県看護協会・兵庫県理学療法士会・兵庫県作業療法士会・日本義肢装具学会
協賛(予定)：ニチイ学館・神戸花鳥園
助成金(予定)：（財）木口ひょうご地域振興財団・特定非営利活動法人　塩井障害者自立支援基金
展示企業：　(予定)車いすメーカー、スィッチコミュニケーション関連メーカー、人工呼吸器メーカー、他
プログラム内容：
10:00～受付け開始(神戸花鳥園入口にて)
10:30～13:00　神戸花鳥園見学(有料(割引))、機器展示(11:00～)、ニチイ学館バリアフリー宿泊室(12:00～)
13:00～13:20　あいさつ（全国頸損者連絡会会長・三戸呂克美、日本リハ工学協会理事長・松尾清美(佐賀大学)）
13:20～15:00　僕らの「すっげえこと」やってみたプロジェクト報告
- 行ってみたプロジェクト（米田進一）
- 関わってみたプロジェクト（藤田厳一）
- 家さがしプロジェクト（桜井龍一郎）
- ひとり暮らしプロジェクト（赤尾広明）

14：40ー15：00　私のやってきたプロジェクト報告（須貝みさき(医師)）
15:00～15:30 休憩＋機器展示見学
15:30～17:00　みんなでディスカッション　コーディネーター:宮野秀樹　パネリスト:プロジェクト報告者
17:30～19:30（120 分）懇親会(神戸花鳥園にて有料参加)

問合せ先：〈全般〉E-Mail:gogo2-office@resja.gr.jp
〈交通・宿泊など〉E-Mail: gogo2-access@resja.gr.jp
合同シンポジウム事務局:
兵庫頸髄損傷者連絡会事務局　宮野
神戸学院大学総合リハビリテーション学部 糟谷（神戸市西区伊川谷町有瀬 518 FAX：078-974-1920）

2008 年度・交通統一大行動

東京頸損連絡会　宮原英夫

２００８年１０月２６日(日)、小雨降る中、恒例の【2008 年度交通統一大行動・東京行動】が、８０名の参加の下、渋谷駅近接の宮下公園で行なわれました。正午３０分から午後２時まで集会、午後２時～午後３時まで、渋谷駅周辺にて交通バリアフリーのアピール・デモ、デモ終了後、渋谷駅から JR 山手線にて、品川駅経由して、JR 京浜東北線蒲田駅に集合して、午後４時３０分から午後５時３０分まで、ビラ配り、活動募金など。

渋谷駅近くの繁華街でデモ行進（東京頸損メンバー多数参加）

08 秋の代表者会議報告

事　務　局

残暑厳しい 9 月 7 日（日）13 時～17 時、ＡＪＵわだちコンピューターハウス（名古屋市）に、全国頸損本部、各支部代表者 17 名が集まり、代表者会議を開催しました。

議題は①大阪総会の反省と、来年の岐阜総会に向けての準備について。②「頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査」について。③機関紙「頸損」の電子版発行について。④全国頸損連絡会「福島地区」の活動について。⑤その他、諸々の活動について、新たなメンバーも加わり、時間を超えて話し合いました。

この秋には全国の頸髄損傷者を対象とした「頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査」を行い、自立生活や社会参加を促進するために必要な、社会的支援のあり方を提起する基礎資料の収集を行います。調査報告書は来年度に発行予定です。

また明年 3 月 7 日には神戸市において、リハビリテーション工学協会との合同シンポジウムを開催することが決まっております。本年 3 月に東京で開催した合同シンポジウムの関西版として、人工呼吸器使用者など高位頸損者のＱＯＬ（生活の質）を高めることを中心に話し合われる予定です。

代表者会議では、セルフヘルプ活動を積極的に進めながら、どのように当会の活動を活性化させていったら良いか、多角的な視点から話し合っているところです。

書籍紹介

１．ニーズ中心の福祉社会へ　　上野千鶴子＋中西正司　編
医学書院　　定価 2,310 円

※「当事者主権」を実現するための、具体的シナリオを提示

２．みんなちがって　みんな一緒！　障害者権利条約
B5 版 50 頁　頒価 500 円　日本障害者フォーラム＜電 03-5292-7628＞

※「障害者権利条約」を分かりやすく解説したパンフレット

装着型自立支援ロボット　ロボットスーツ(ROBOTSUIT) HAL(ハル)福祉用

筑波大学山海研究室から生まれたベンチャー企業、ＣＹＢＥＲＤＹＮＥ（サイバーダイン）は２００８年１０月７日、装着型自立支援ロボット「ロボットスーツ（ＲＯＢＯＴＳＵＩＴ）ＨＡＬ（ハル）福祉用」を１０日から、総代理店の大和ハウス工業を通してリース販売すると発表した。

ロボットスーツＨＡＬは、体を動かすときに脳から送られる信号を皮膚表面で検出してモーターを動かし、身体の不自由な人の動作を支援するという世界初のサイボーグ。既に、車いす使用者がＨＡＬを装着することで散歩ができるなどその成果は世界的に注目されている。

今回発売する「福祉用ＨＡＬ下半身バージョン」は、筋肉や神経に障害のある障害者や高齢者の自力での立ち座りや歩行、階段の昇り降りを支えるもので、装着時の介助が受けられる介護・福祉施設利用者が対象。サイバーダインでは今後、施設での利用実績を踏まえて、在宅介護への提供も検討するという。

下半身ＨＡＬは､両脚と単脚の２タイプがあり、両脚のリース料金は５年契約で月額２２万円、単脚は同１５万円。いずれもバッテリー駆動で連続約１時間の使用が可能。当面、大和ハウス工業の営業エリアで、十分なメンテナンスやアフターサービスを提供できる首都圏と関西圏のみでの販売。

初年度は年間５００台。将来的には単関節バージョンなどローカル部位用のＨＡＬも増やしていくそうである。

(文責：横田)

写真「ロボットスーツ HAL 福祉用」。両下肢タイプ＝写真左＝と、単下肢タイプ＝同右＝

写真背面から見た単･両下肢タイプのロボットスーツ HAL

◆出典

毎日新聞　ユニバーサロンリポート

http://www.mainichi.co.jp/universalon/report/2008/1005.html

◆動画ページ

HAL を紹介する山海代表取締役　Quick Time 版（mov）

http://www.mainichi.co.jp/universalon/report/movie/2008/1005_a.mov

HAL を紹介する山海代表取締役　Windows Media Player 版(wmv)

http://www.mainichi.co.jp/universalon/report/movie/2008/1005_a.wmv

2009 全国頸髄損傷者連絡会総会　岐阜大会のご案内

テーマ　一期一会　～

自己実現や主体的な生き方を支援するための「支援機器や技術」との出合いや、ＱＯＬを高める「音楽やオシャレなどの身近な楽しみ」、「人と繋がる楽しさ」を、参加者それぞれが、新たな視点で感じ、将来の生活を豊かにしていく機会となればと考えています。

『長良川鵜飼』

（写真：岐阜県観光連盟）

・日　時　平成 21 年 5 月 16 日～17 日

・会　場　シンポジウム　　全国頸髄損傷者連絡会総会

JR岐阜駅アクティブG　2階　TAKUMI ミュージアム

交流会

ホテル　岐阜キャッスルイン（予定）

・内　容　16 日　シンポジウム（予定）

第 1 部「支援技術が創る未来」

重度障害者の自立を支援する機器（展示・講演）

「障害者を支援する機器・技術のこれから」（パネルトーク）

第 2 部「自分らしく・・・」

車いす利用者も「浴衣」を着て「夏」を楽しもう

Made　in　Gifu の手軽にプレイできるギター『一五一会』

16 日　交流会

17 日　全国頸髄損傷者連絡会総会

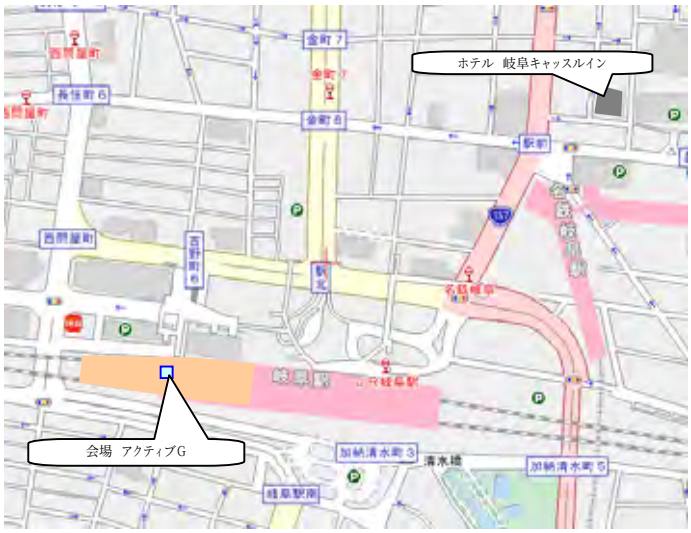
・アクセス

鉄道を利用の場合

・東京方面、大阪方面からいずれも、新幹線でJR名古屋駅

JR名古屋駅からJR東海道線で、JR岐阜駅まで

JR岐阜駅から会場のアクティブGへ



車を利用の場合

・東京方面（東名→名神→東海北陸自動車道　）で岐阜各務原　IC、または一宮木曽川 IC

・大阪方面（名神→東海北陸自動車道）で岐阜各務原 IC、または一宮木曽川 IC

インターチェンジからは

岐阜各務原 I.C（東海北陸自動車道）→　国道 21 号線→岐南インターから 156 号線を北進→岐阜環状線→岐阜市街

一宮木曽川 I.C（東海北陸自動車道）→国道 22 号線から 156 号線を北進→岐阜環状線→岐阜市街

全国頸髄損傷者連絡会連絡先

(08.11 現在)

全国頸髄損傷者連絡会・本部

〒162-0051　東京都新宿区西早稲田 2-2-8　全国心身障害児福祉財団ビル 5F
TEL&FAX 03-3208-1655　　e-mail: keisonren@ne.nu
http://www.saka-ue.cside.com/j/naq/
〔郵便振替〕口座番号：00110-0-62671　　口座名義：菊地方　頸損連絡会
※　各支部、地区窓口の住所は本部にお問い合わせ下さい。

全国頸髄損傷者連絡会・北海道地区窓口

〒069-0853
北海道江別市大麻高町 6-11(川原方)
TEL&FAX 011-387-7190
※　「北海道頸髄損傷者連絡会」は支部活動を停止し、体制変更しました。

全国頸髄損傷者連絡会・福島地区窓口

〒961-8031
福島県西白河郡西郷村大字米字中山前 146-1 (相山方)
TEL 080-1656-1727　　e-mail:hidamari.s@gmail.com

栃木頸髄損傷者連絡会

〒320-8508
栃木県宇都宮市若草 1 丁目 10 番 6 号　　とちぎ福祉プラザ内(2F)
TEL&FAX 028-623-0825　　e-mail:keison@plum.plala.or.jp
http://www16.plala.or.jp/tochigi-keison/

東京頸髄損傷者連絡会

〒143-0015
東京都大田区大森西 3-10-3-101(宮原方)
TEL&FAX 03-3766-6084　　e-mail:keison5@khe.biglobe.ne.jp
http://www.normanet.ne.jp/~tkyksn/index.html

神奈川頸髄損傷者連絡会

〒228-0828
神奈川県相模原市麻溝台 696-1　　ライム 106 号室 (星野方)
TEL&FAX 042-777-5736　　e-mail:h-futosi@wa2.so-net.ne.jp
http://www.k-sonet.jp/

静岡頸髄損傷者連絡会

〒426-0016
静岡県藤枝市郡 1-3-27　　ＮＰＯ法人 障害者生活支援センターおのころ島気付
TEL 054-641-7011　FAX 054-641-7181　　e-mail:matunosuke@ca2.so-net.ne.jp

愛知頸髄損傷者連絡会

〒466-0035
愛知県名古屋市昭和区松風町 2-28　　ノーブル千賀１Ｆ　　ＡＪＵ自立生活情報センター内
TEL 052-841-6677　　FAX 052-841-6622　　e-mail:kito@aju-cil.com

頸髄損傷者連絡会･岐阜

〒503-0006
岐阜県大垣市加賀野 4-1-7　ソフトピアジャパン 702　バーチャルメディア工房内
TEL&FAX 0584-77-0533　e-mail:kson_g@yahoo.co.jp
http://www.normanet.ne.jp/~yume/

京都頸髄損傷者連絡会

〒612-0031
京都府京都市伏見区深草池ノ内町１２　ハイツ青風３Ａ（古屋方）
TEL 075-645-5818　e-mail:keison@ev.moo.jp
http://keison.moo.jp/

大阪頸髄損傷者連絡会

〒534-0027
大阪府大阪市都島区中野町 3-4-21　ベルエキップ･オグラン 1 階　自立生活センターあるる内
TEL&FAX 06-6355-0114　e-mail:okeison@yahoo.co.jp
http://rsakurai.hp.infoseek.co.jp/oaq/

兵庫頸髄損傷者連絡会

〒674-0068
兵庫県明石市大久保町ゆりのき通 2 丁目 3-5-1-205（三戸呂方）
TEL&FAX 078-934-6450　e-mail:hkeison@yahoo.co.jp
http://hkeison.hp.infoseek.co.jp/

愛媛頸髄損傷者連絡会

〒791-2120
愛媛県伊予郡砥部町宮内 394　(有)アイペックエヒメ内
TEL 089-960-7730　FAX 089-960-7731　e-mail:skazu9@peach.ocn.ne.jp
http://www4.ocn.ne.jp/~keison/index/index.htm

リレーエッセイ
思いやる社会を考える

車いすで街に出ると、人の優しさを感じることがある。デパートの入り口などで、自然に扉を押さえてもらったりすると、嬉しい気持ちになる。だが一方、エレベーターの前で順番待ちをしていると、後ろの人が先に乗り込み、乗り込めずに不快な思いをする事もよくある。

障害者であろうが、健常者であろうが、ほんの少し周りに気を遣えば、ほんわかとした気持ちになれるのに、自分さえ良ければ良しとする振る舞いがやけに多いのが気になる。

10 年くらい前に、カナダを旅行した折には、障害者であることをあまり意識せずに行動できた思い出がある。エレベーターの前に並んでいても、順番に乗り込むことが出来たし、ドアを目の前で閉められることもなく、老若男女、障害者でも自然に手を差し伸べ合う雰囲気があった。

圧巻は超満員のディスコに連れて行かれた時の体験だ。日本なら「何でこんなに混んだ所に車いすの集団が来るのだ、邪魔くさい」と言われるか、入場拒否にあうのが関の山だろう。だが大歓迎されてびっくりした思い出がある。

互いを思いやる社会が生み出した、心豊かな暮らしを肌で感じた体験が、今も希望を捨てないで頸損の活動を続けさせている気がする。（や）

編集後記

またあわただしく一年が終わろうとしています。

今回の『頸損』特集記事でも取り上げたように、全国各地で「セルプヘルプ活動」としての各種取り組みが展開されてきています。

小さな力を合わせて大きなものにしていく中で、何かが変わっていくことを期待しつつ、来るべき新しい年を迎えたいものです。

K

編集部よりお知らせ

●『頸損』電子版（ホームページ）、ぜひご覧ください。

●編集部員（協力者）募集

全国機関誌『頸損』編集部では、協力していただける方を随時募集しています。ぜひご連絡ください。

●編集部連絡先

住所　〒189-0023　東京都東村山市美住町 1-4-15-1-105

TEL：042-396-7816　E-MAIL：tosiaki@tokyo.email.ne.jp

●郵便振替（振込）　00110-0-62671　頸損連絡会

全国機関誌「頸損」電子版の提供について

全国頸損連絡会では、これまで冊子版の機関紙「頸損」を会員の皆様にお届けしてきました。しかし近年、頸損会員の重度化が進み、電子版の機関誌を求める声が届くようになりました。

そこで高位頸損会員の方にも、自由に機関誌を読んで頂きたく、電子版（ＰＤＦ版）を作成しました。現在、ＰＤＦ版の「頸損 92～95 号」を当会本部ホームページに公開しております。今号「頸損 96 号」もＰＤＦ版ができたらホームページに公開します。

全会員の皆様が機関誌「頸損」を自由に読んで頂けたら嬉しく思います。ご意見等ありましたら編集部までお寄せください。

※ ＰＤＦ版「頸損」は当分の間、自由閲覧できる形で公開する予定です。

全国頸損連絡会ＨＰ　http://www.saka-ue.cside.com/j/naq/

全国機関誌「頸損」電子版の提供について

全国頸損連絡会では、これまで冊子版の機関紙「頸損」を会員の皆様にお届けしてきました。しかし近年、頸損会員の重度化が進み、電子版の機関誌を求める声が届くようになりました。

そこで高位頸損会員の方にも、自由に機関誌を読んで頂きたく、電子版（ＰＤＦ版）を作成しました。現在、ＰＤＦ版の「頸損92～95号」を当会本部ホームページに公開しております。今号「頸損96号」もＰＤＦ版ができたらホームページに公開します。

全会員の皆様が機関誌「頸損」を自由に読んで頂けたら嬉しく思います。ご意見等ありましたら編集部までお寄せください。

※ＰＤＦ版「頸損」は当分の間、自由閲覧できる形で公開する予定です。

全国頸損連絡会ＨＰ　　http://www.saka-ue.cside.com/j/naq/

二〇〇八年十二月十五日発行
ＳＳＫＡ頸損増刊通巻第六四三八号（毎月六回一・六の日発行）
昭和四十六年八月七日第三種郵便物認可

発行人　障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区砧六―二六―二一

編集人　全国頸髄損傷者連絡会
東京都新宿区西早稲田二―一―八―五Ｆ

頒価二五〇円

ＳＳＫＡ 頸損　**No.96**　　2008年12月15日発行

ＳＳＫＡ　頸　　損

編　　集　全国頸髄損傷者連絡会
編集責任者　三戸呂　克　美
全国頸髄損傷者連絡会本部　東京都新宿区西早稲田2-2-8
全国心身障害児福祉財団ビル5階
TEL/FAX （03）3208－1655